

本づくりへの情熱が楽しさやおもしろさに



岡田編集長、夏季講座で語る



第629号
 発行人 ● 豊丘村公民館 唐澤克己
 編集人 ● 長野県下伊那郡 豊丘村公民館 編集委員会
 0265-35-9066
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
 (7月1日現在 ※外国人を含む)
 男 3,437人
 女 3,532人
 総人口 6,969人
 世帯数 2,054戸

厳しさの中にもやりがいがある

— 四季大学で本づくりの実情を学ぶ

とよおか四季大学夏季講座が、七月六日に役場で開催されました。今回の特別講師は、株・ダイヤモンド・ビジネス企画の岡田晴彦編集長で、「本づくりの楽しさ、おもしろさ」と題して講演をされました。受講者は、出版業界の実情や本づくりの過程を学びました。

南市場 日下部 富次

岡田先生の「本づくりの楽しさ、おもしろさ」という演題に惹かれて、今回初めて四季大学夏季講座に参加させて頂きました。会場にはすでに大勢の聴講者がおられ、ヒーンとした心地よい緊張感が漂っていました。

まず、丸山先生のミニ講座。体育だけでなく現代を生きる上で重要な視点を二つ示唆されました。

①「学校教育において『態度』を評価することは是非。」

②「客観的『一番』と主観的『一番』の違いとは何か。」

具体的で納得できました。次は本日の中心講座です。岡田先生のお話は出版社の立場からだったのですが、私は我々素人にもできる本づくりの楽しさ、おもしろさのお話と思っていました。で、引つが合わないまま拝聴していました。しばらくして楽しさやおもしろさは作者のものではなく、読者の立場からのものであることに気づきました。対象が逆だったわけでした。お恥ずかしい限りです。

さて読者の立場に立つて「楽しい、おもしろい」となる対象者が不確定多数ですから内容が大変です。いい本の条件が必要ですね。



丸山理科大教授の熱弁も魅力

③「題材は新鮮か。」

④「読者にとって魅力的か。」

等々についてチームを作り様々な意見を交換するのだそうです。こうして出来上がった本が読者を引きつける「楽しさ、おもしろさ」となるわけですね。

出版される本はあくまで読者が主体であることを改めて痛感した次第です。私が最初感じた違和感私の認識不足から来るものと同じ、お話を聞きしよかつたと思つています。四季大学に初めて参加し、自分の未熟さを痛感している次第です。

高齢者が核の事業運営

女団連リーダー、「おやき村」視察で学ぶ

丸いおやきで心もまるく

女性団体連絡協議会
片桐 百合

七月十二日に女性団体連絡協議会のリーダー研修が行なわれ、上水内郡小川村にある「株・小川の庄」経営の「おやき村」を視察しました。「株・小川の庄」の戸谷英雄常務さんより、「おやき村」の設立の経緯、経営方針、事業内容等をお聞きしただけでなく、実際に「おやき」も体験いたしました。地元の高齢者を核にした事業運営は大変参考になったようです。

七月十二日に女団連リーダー研修で小川村の「おやき」へ行ってきました。長野インターを出てしばらく行くと、だんだん山の方へと登っていき、カーブは多くなるし道路の幅も狭く

て、おやきの里へ到着した時は、運転手さんにみんなで拍手をしてみました。ひと息する間もなく、おやきづくり体験場へ案内してくださいました。大きないりりに大きないり鍋、そしてどどん火が燃えておりました。おやきは、一人で二つ作ったのですが、中に入れる具材は、数ある中で野菜と茄子味噌を用意してくださいました。八十一歳のベテランおばあちゃんの

ご指導で、みんなが上手に作ることが出来ました。自分達で作ったおやきと手打ちそばをお昼に頂きました。とても美味しくかったです。おやきの里は、昭和六十一年十月に農家を改造したのがはじまりだったとの事。はじめるは、七十八歳を定年にしていましたが、今は定年はないそうです。小さな山村の人達が団結して、今では全国はもとよ



満面の笑みが研修の充実度を示しています

り、海外にまで発送しているとの事でした。これまでにしてこられた努力と熱意が感じられ、感心することばかりでした。

（正木淳子）

豊丘村では毎月ファミリーブックやお楽しみ会を開催し、乳幼児の時から図書館を身近なものと感じてもらいたいと考えています。子供達からは村図書と呼ばれ、読書や学習室を使用してもらっています。

社会教育施設にできるホールや展示室、会議室などを利用しながら図書館も利用したり、本を中心に図書館をもっと人が集まる場所にしようという取り組みは大切だと思つています。

現在、村図書館には閉架書庫内も含め五万冊の蔵書がありますが、古い資料も多いですが、有効利用していきたいと思つています。

図書館はみんなが楽しめる場所です。新しい施設は今より広くなり、ゆつたりとすごせます。サロ、飲食コーナーもできます。正しいモラルを守りながら使いたい。今でも図書館を利用したことがない人も気軽に本を通して交流できる施設ができたらと思います。



愛があれば 悲しみが温もりに

公民館学習会が慈恵園で開催される

公民館学習会が、六月十九日に林原地区にある慈恵園で開催されました。今回は、慈恵園の施設の見学も兼ね、園長の具原康先生の見学をお聞きしました。

上市場
大原 眞由美

六月の学習会が慈恵園で開催され、慈恵園の見学と具原園長先生の講演がありました。一人一部屋です。フライパンを保持しながら、食事入浴洗濯等は共同、上の子が下の子に手を貸してあげると、協調性を養っています。『できるだけ家庭に近い環境作りを心掛けています』と職員の方からお聞きしました。

園は六人で一つのユニット(家庭)を作っていて、全部で五ユニットあります。一人一部屋です。フライパンを保持しながら、食事入浴洗濯等は共同、上の子が下の子に手を貸してあげると、協調性を養っています。『できるだけ家庭に近い環境作りを心掛けています』と職員の方からお聞きしました。



一言一言が心に染み入ります

た。人柄の温かみも、語り口と内容、会場が慈恵園である事と相まって、心に染み込んできました。百二十余名の大勢の方が参加された中、男性はほんの数名でした。この様な良い勉強会は是非男性の参加も願うのですが、女性のパワーが強すぎるのでしょうか。

通学合宿見聞記

様々な体験、充実感

慈恵園を宿舎にした小学校四年生の通学合宿が始まりました。七月二日から五日までは、南小生徒十名が体験しました。見聞した様子を報告していただきます。

社会教育委員
寺澤 愛子

七月二日午後四時半、子供たちが慈恵園に到着、カバンを背負い、ニコニコ顔で「こんにちは」と挨拶してくれました。こちらも思わず「お帰りなさい」と返事す

ことあるという子もいて、上手にこなす。その後、外に出て遊び、それからお話の会、絵本や紙芝居も楽しむ。続いて、漢字のクイズで大いに盛り上がる。

入浴も済んで、いよいよ就寝準備。布団を敷き、シーツをかけて、枕にカバーをつける。多少枕も飛ぶが、後はぐっすり熟睡。朝六時の目覚ましがある前に、みんな起きてきて顔を洗う。さわやかな笑顔。会話ははずむ。朝食を済ますと登校準備。そして、「行ってきます」と学校へ。

今回の合宿全体では、二日目の夜間散歩が最高だった様子。三日目の慈恵園生との交流会では、中学生のお兄さんから、将棋やオセロも習う。小生同士では、テレビの問題で盛り上がる。合宿終了の朝、「家と慈恵園とどっちがいい?」との質問に「びみょー微妙(二つともいい)また来たい」と等々返事があった。これは、子供たちの本心であろう。通学合宿で様々な体験をした満足感と、それぞれ自分の家庭を思いやる心が、子供たちの言葉と表情ににじみ出ていた。



友達と宿題をやるのも貴重な体験

史学会コーナー

郷土の遺産 シリーズ (36)

福島中山用水

千駄木

高田 和美

福島の中山用水は、昭和十年頃、区の先人達が、昔から水のないこの地域に水を引き、山間地の生活用水や水田に活用したいとの思いから始まりました。生活の向上と米の増産を目的に、相談がまとまったそうです。昭和十三年頃、福島の中心部より約四メートル山奥の中山地帯から水を引く工事を始めました。深い谷や高い尾根がある場所を、

千駄木から水源までの二キロメートルの勾配は、二〇〇分の一です。関係ない人は、ここに水が来たなら逆立ちして歩くまで言ったそうです。水源は、中山地帯の官公造林地に洞をせき止めて築き、その材料も全部人力でした。今日では考えられないことです。千駄木より下は、道路や畑の中を適分距離まで土管(陶管)を用い、支線は各自で家まで配管しました。どこにか水が千駄木に来たのが、昭和二十年頃になります。しかし、水路が災害で崩落し



約4km 山奥の水源地

たため、また、逆勾配のところもあったので、再度工事をすることにしました。組合員が総出で、また、当時高木にあった農学校の生徒が組合員の家に二十日ほど寝泊まりし、水路を全部開渠にして隧道内の泥を出す

すなど、崩落個所の補強工事をを行いました。ピニール管の敷設は業者に委託しました。待望の水は、昭和二十三年頃から、来始めました。その後も三六災で洞の水路が流失し、その補修を補助金で賄うなど、多くを外部の力に頼って現在に至っております。当初四十戸弱で充足した組合も、高額な維持費や年五回以上の労務負担等のため、また、高齢化により出役ができず、今は二十戸になりました。しかし、福島地区は水が不足しやすい地域であり、千駄木や本村の水田等で、特に今年はその影響が甚大です。それ故に、先人の思いを今後いつまでも繋ぎ、美しい農村の風景を残しておく必要があると、水の大切さを考え、用水発案から今日まで七十余年、先人の思いは、ある時は消えそうになり、ある時は大きな希望で膨らみました。あれから三代目、またまた中山用水は続けていきたいと思っています。

少しの工夫で 身体が軽く

「親子セミナー」で学ぶ

子供も楽しむ 中部 久保田 和義

六月十六日に行われた親子セミナーに、年長の息子と参加しました。スポーツの講習会ということで、日頃「足が速くなりたい」と言っていた息子も楽しみにしていました。当日は講師の牧内先生から、まず靴の履き方、ストレッチ、柔軟体操等を教えていただきました。普段の生活では気にせず行なっていたことが、少し気をつけて行なうだけで、走りやすくなったり、体が軽くなったり、動きやすくなること



親より子の方に余裕が

を実感できました。また、全体を使っているジャンケン、簡単な器用を使用した走り方など、元談を交えながらの練習は、子供達もとても楽しんで運動している様子でした。親も一緒に運動をしながら、簡単なストレッチですが、簡単な事ながら、なかなかできないかた、少し動くと体が痛くなったり、日頃から体を動かす事が大事だと痛感しました。二時間という短い時間ではありましたが、家では教えられない事を子供達に教えていただき、大変勉強になりました。

今回のセミナーは、スポーツでしたが、他のセミナーについても、子供が興味を持ったものは、積極的に参加していきたいと思えます。

生活リズム改善村民運動 新たな課題解決に向けて

今までの経緯と今後を展望する

教育委員会事務局長
阿部 繁

「早寝早起朝ご飯」をキヤッチフレーズに県内のトップを切って生活リズム改善運動に取り組み始めたのが平成十七年度途中からでした。昨年はその成果が認められ、長野県の代表として文部科学大臣表彰を受けることができました。

この運動をスタートさせた時に事務局として携わった者としては感慨深いものがあります。そもそもこの生活リズム改善に村をあげて取り組むことになったのは、小学校の朝食調査でした。牛乳だけ、コーヒートとハン一枚だけという子どもが全体の三分の一にも達し、朝食と意欲、集中力、情緒との関係を調べた結果、朝食の重要性を唱える学者の研究結果と一致するものでした。



公民館にひるがる横断幕

「生活リズム改善部会」では、八月二十九日(木)の午後七時から、元NHK職員の高橋清輝氏を招き、「メディア漬けで壊れる子どもたち」の講演会を開催します。清輝氏の講演は平成十八年にも行ないましたが、データに裏付けられた具体的なお話が大好評でした。是非ご聴講ください。

生活リズム講演会

「早寝早起朝ご飯」をキヤッチフレーズに県内のトップを切って生活リズム改善運動に取り組み始めたのが平成十七年度途中からでした。昨年はその成果が認められ、長野県の代表として文部科学大臣表彰を受けることができました。この運動をスタートさせた時に事務局として携わった者としては感慨深いものがあります。そもそもこの生活リズム改善に村をあげて取り組むことになったのは、小学校の朝食調査でした。牛乳だけ、コーヒートとハン一枚だけという子どもが全体の三分の一にも達し、朝食と意欲、集中力、情緒との関係を調べた結果、朝食の重要性を唱える学者の研究結果と一致するものでした。

「生活リズム改善部会」では、八月二十九日(木)の午後七時から、元NHK職員の高橋清輝氏を招き、「メディア漬けで壊れる子どもたち」の講演会を開催します。清輝氏の講演は平成十八年にも行ないましたが、データに裏付けられた具体的なお話が大好評でした。是非ご聴講ください。

こちら資料館 ③ 「ええじゃないか」と豊丘村

六月九日に福祉センターで、元南信州新聞社記者の後藤拓磨先生をお迎えし、

「ええじゃないか」は、江戸時代末期の慶応三年(一八六七年)七月から翌四年にかけて広がった社会現象です。天から御札が降ってくる前が、これはよい事が起きる前が、と多くの人が信じました。そして男が女の服装を、逆に女が男の仮装をして囃子言葉の「ええ

「ええじゃないか」は、江戸時代末期の慶応三年(一八六七年)七月から翌四年にかけて広がった社会現象です。天から御札が降ってくる前が、これはよい事が起きる前が、と多くの人が信じました。そして男が女の服装を、逆に女が男の仮装をして囃子言葉の「ええ



河野に降ったお札(資料館蔵)

村民広場 『今思うこと』 ふるさとの温もりを家族で体感

館報の企画「今思うこと」が始まりました。初回の執筆者は、林原在住の古瀬聖史さんです。ふるさとの風物や人情に寄せる古瀬さんの限りない愛着が、さわやかに心に響いてきます。豊丘村が、どんなにとっても心のふるさであることを願うものです。

ふるさと

林原 古瀬聖史

先日の南小の音楽会、子供達の合奏や合唱に感動。最後に、生徒全員で紅白歌合戦にて歌われたアイドルグループ嵐の「ふるさと」を唄ってくれました。

「雨降る日があるから虹が出る。苦しみぬくから強くなる。助け合える友といたい」等々歌詞も素敵で、ふるさとっていいよなあと子供達のそれまでの感動に加えて、思わず涙が溢れました。

私の大切な「ふるさと」は三つ。自分が生まれ育った遠山と妻の生まれ育った飯山。そして今、家族で生活し、息子達が学び育っているこの豊丘村です。

ここに住んで実感していること。それは、その名の通り「いろいろなことがほんとに豊かな、丘の村」であるという事です。残雪や新緑の中央アルプスの眺め。田園や、実り豊かな果樹の景観。獅子舞や神輿など各所で伝承されている祭りや、公民館活動そしてスポーツなど、どれもこれも誇れるモノではないでしょうか。

都会への通勤も可能となるわけで、「すこやかなふるさと」とよおかのスローガンのとおり、多くの若者や子供達が、自然豊かなこの村や南信州に生活してほしいと、願うものです。

最後に以前、講演会で聞いた一日火水木金土を大切に！を紹介いたします。日一太陽の存在、恵みを月一満月、三日月や潮の満引き

火一火の大切さ暖かさ怖さ水一水の大切さ、怖さを木一木のぬくもりや森を金一お金の大切さや怖さを土一母なる大地や温もりをこれら自然の営みを子供達と体感し、家族で大切にしよう。それが、心のふるさとに、きつとつながる。

読書の楽しみ 笑顔が増える

読書には様々な効用があります。楽しい本をたくさん読めば、きっと笑顔が増え、世の中は明るくなると思います。悲しいときや辛いときにも、思い切って楽しい本を読めば、勇気が湧いてきて、生きる力がでてくるかも知れません。本は、人生の色々な場面で、私たちを励ましてくれる力になってくれます。

北小五年 宮下野乃香

わたしは、本についてこう思います。まず、楽しい本を読んだら、その本の通りに心も楽しくなります。楽しい本を世界中に広めたら、



まだまだ読む本がたくさんあります



学校の音楽会もわがふるさとの誇り — 南小の音楽会より

適度な運動、頭も使う

老若男女で楽しめるゲートボール

六月二十七日にスポーツ館で、公民館ゲートボール大会が行なわれました。大会に因み、ゲートボールの魅力や連盟の活動について語っていただきました。

ゲートボール連盟 宮下勝美

皆さん、ゲートボールをしてみませんか。ゲートボールは、小学生から高齢者まで、みんなが楽しめる、頭脳プレーと心地よい運動をミックスしたスポーツです。一チーム五名で、赤いボールが先攻、白いボールが後攻で競技を行います。試合の前に、お互いのチームの選手確認を行ない、主審、副審、記録員の紹介があり、主審の「プレーボール、一番」の発声で競技が始まります。四メートル先の二二センチ幅の第一ゲートをボールが通れば、後はチームでお互いに助け合いなが



この一打に願いを託して

ら攻めたり守ったりして、第二と第三ゲートを通し、最後のゴールボールへ当たる競技です。誰でもできる、決して難しいスポーツではありません。しかし、最近では若い人の入会がなくなり、チームの存続が難しくなる心配が出てきました。現在の愛好者は八十歳以上が六十五%を占め、超高齢化しています。基本は日本ゲートボール連合の競技規則や実施要領に従いますが、村内の大会は、その都度代表者の申し合わせをし、高齢者でも無理なく楽しめるよう考えております。

豊丘の自然

~シリーズ~ No.117
ミスジマイマイ (マイマイ科)



写真提供:四方圭一郎氏

いつになく早い七月六日の梅雨明け(平年より十五日、昨年より十九日早い)。連日のように報道される熱中症関連の記事。ふと人間以外の動植物は、どんな対処法や予防法を持ち合わせているのだろうかと考えた。ましてや、梅雨時の代名詞にもなっているカタツムリ達は、今月はそんなカタツムリの中から、ミスジマイマイを紹介した。

ここからは、以前に豊丘公民館にも来ていただいた飯島昭先生の展覧会「なんでもかんでもカタツムリ」の紹介。
・世界一でつかいカタツムリと世界一ちっちゃいカタツムリ・ピョンピョンとびはねる!?カタツムリの衝撃映像・長野県のカタツムリゼンくん見せます!など、飯田美博へどうぞ。(山田 拓)

緑の林で楽しい一時

第3分館農休日スポーツ大会

第三分館主事 北林智明

六月十六日に、恒例行事の農休日スポーツ大会(マレットゴルフ)をアカシアマレットゴルフ場で行ないました。前日までの天気では、大会が出来るか心配でしたが、当日はスポーツ日和となり、大勢の参加で盛大に出来ました。小学生も参加され、少人数でチームを作りコースを回り始めると、「ワゴン」とボールを

打つ気持ちのよい音、笑い声、時には「デイスショット」(OB)とにぎやかな声が聞こえ、マレットゴルフを楽しむひとりが出来ました。全てのコースを周れたチームや、時間の都合で途中で終わってしまったチームもありました。コースから出て来る人は、笑顔や久しぶりのスポーツで疲れた顔の人と、様々でしたが、楽しい一時を過ごせたと感じました。

スポーツ大会の後には、慰労会もあり(こつちがメイソン?)、汗かいた後の一杯はとても美味しいものになったと思います。
農休日スポーツ大会は、第三分館の恒例行事でありますので、来年も大勢の参加で盛大に出来ることをねがいます。

お知らせ
夢之助 来村!
村の文化事業が、今年も開催されます。今回は「笑亭夢之助さん」と他二名をお迎えし、生の落語を楽しんでいただきます。詳細は追ってチラシ等で連絡いたしますが、概要は左記の通りです。(入場料)

柳 (豊丘川柳クラブ豊柳会)

▼課題「早」 曾我秋水選	早乙女が消えた田んぼに乘用機	桃澤 健介
お早うの挨拶嬉し朝膳	西元 峯子	
颯爽と嫁の早足リズムカール	泉 久子	
早くこい笑顔広がる好景気	吉川 燎	
▼課題「絶」 曾我秋水選	喜寿 喜多	
T P P 断崖絶壁酪農家	宇井恵美子	
絶対にしてはならぬと腹に据え	林 桃子	
絶世の美女も避けぬ老いの道	原 美風	
先のない母が絶えずに子と思う	久保ひろし	
あの子の消息途絶え今いずこ		
軸吟：絶え間なく流れる川の和やかさ		
▼自由吟 桃澤健介選	安田 喜子	
同じ年八十の登山家助まされ	福沢 勝美	
首相殿原発売りに外遊し	市沢 照子	
お湿りでびんびん元氣茄子トマト		
軸吟：豊柳会世相風刺し百ヶ月		

俳句 短歌

打ち揃う太鼓の響き藤揺れる
積みたれた土管口あく梅雨晴間
等地蔵雨間咲きつぐ立葵
姑射橋に万緑なだれ下り船
紫陽花の白髪に見える去年の枝
柿若葉浮雲ひとつ富士に似る
竹落葉屋敷せましと舞ひ落つる
兄弟で式年遷宮桐の花

公民館短歌会

茶に混ぜて呑めば休に良いからと蜂蜜持ちて次男立ち寄る
雲よ雲たまには離れて行くもよし風はいたすらすくまた来る
乾きたる鍬のゆるみを水に浸け子らと一緒に野菜を植える
クラス会気の合う者の温もりを感じるよきの今を楽しむ
さあやろう青いダイヤの収穫た汗ふく妻に声かけて立つ
横浜で並木の桜切ると聞く樹齢八十 われも八十
ジンマシンで豆腐はかりの月変り五キロ痩せしは神のはからい

八日会

衣替え白き制服に身を包み登校の子等に空は晴れたり
金閣寺の数奇屋造の茶室前にアメリカカメラに納まる
犬と猫道路の真中に睨み合うも一瞬にして共に消えゆく
茄子一ヶ胡瓜二本の初採りをます佛壇へ色のよろしき

中山 寿子
北原 昭子
磯部セツ子
田中 静
三島 保子
三島 里子
木下 眞水
和地 睦夫
中島 和彦
北沢 秀子
毛涯百台子
大倉 知江
松下 泰見
壬生 千春
富永 博道
松島 八重
織田 大原
河原 梨花